

下紺屋町の歴史① 八幡神社



【八幡社】雑社 社地東西卅五間、南北二十四間、面積二反八畝歩、當町北の方字八幡に在り。應神天皇、神功皇后、思姫命、市杵島姫命、湍津姫命の數神を祭る。勸請天正十二年月日不詳、祭日四月廿日。社地境内松、槐の老樹あり。舊神官關某の藏する正徳年中の記に曰、寛平年中に方り、清和天皇第四の皇子貞元新王の孫、善淵王、信濃國小縣郡瀨津郷より同郡海野郷に移られ、海野小太郎幸恒と稱せられし時、宇多天皇之に姓滋野を賜り、滋野王と稱す。此の時山城國より遷座同郡に祭祀せらる。後眞田安房守昌幸、天正十二年同郡上田に移、築城の際海野郷より當地へ遷座せらる。從來數代崇敬せらる。

長野懸町村誌
(昭和11年7月発行)

眞田安房守昌幸が天正12年(西暦1584年)上田城築城にあたり鎮護のために、東御市の八幡神社(現：滋野神社)を現在の地へ移したと伝えられている。

眞田氏のあと、上田藩主となった仙石氏・松平氏の崇敬篤く、藩主自らの参拝、社殿の修築再建などは藩の費用で行われた。

松平氏のころ、弓矢の神と崇めて、毎年正月三日の射初式のとき金小的に当てた者は、十四日の宵祭り翌十五日未明のその的と矢を奉納することを例として幕末まで続けられていた。



紺屋町の八幡社に掲げられている一対の大絵馬 (102cm×160cm)

滝を背景にしての岩頭の黒鷹(普通の色)と松の枝上の白鷹を、1羽ずつ描いている。2面ともに、金箔を地に押した豪華な作品である。

いずれも表に「奉掛御宝前 貞享五戊辰年五月吉辰」の墨書銘があり、裏面には「絵鷹二枚之内雪舟末葉長谷川等栄信舟筆」とある。

作者長谷川等栄は、その名より、雪舟を画系の祖と仰いだ長谷川等伯の起こした長谷川派の一家であったとみられる。また『改選仙石家譜』に「(貞享4年10月)二十六日、画工長谷川等栄を招て俸米五拾石五人扶持を与ふ」とあり、仙石家御抱えの絵師であったことが知られる。この絵馬には奉納者名はないが、これより、時の上田藩主仙石政明の奉納と考えて間違いないであろう。また貞享5年(1688)奉納というこの絵馬は、上田小県地方に残る最古の絵馬ではないかともみられ、その点においても貴重資料といえる。

この八幡社は上田城の鬼門(北東)の方角に位置し、その守護神として代々の城主の崇敬があつく、社殿の造営・修理等は藩費でまかなわれている。特に仙石政明は、自らしばしば参拝し、貞享3年には同社(および大宮社も)の玉垣を造らせている(改選仙石家譜)。昭和60年9月6日に上田市の有形文化財(絵画)に指定されています。

滋野神社 (東御市海善寺字滋野鎮1045番)



ここのお宮は昔氏子の祖先が産土神を祀っていた処へ、京都男山の石清水八幡宮から分社された八幡宮を祀り、氏子はじめ東信地方の豪族海野氏からも厚く信仰され、五穀豊稔と家内安全を祈願し、その祭典には奉納の相撲や芝居の催しで社頭殷賑を極めし由。ここのお宮から上田市紺屋町八幡社や、更にそこから眞田氏によって松代町にも分社されたと伝えられる。

明治十三年に八幡宮から現在地滋野鎮の字名に拠り、滋野神社と改称された。

八幡社 (長野市松代町祝(ほうり)神社内)



関ヶ原の戦いの後上田城は徹底的に取り壊された後眞田信幸に引き渡された。上田領の領内整備を進めていた信幸であったが、元和八年(西暦1622年)に突然松代十萬石への領地替えを命じられた。元和八年十一月に譜代の家臣を多く引き連れ松代に移ったが、眞田氏ゆかりの多くの寺社も移した。幸隆・昌幸の墓がある長谷寺は長国寺として眞田家の菩提寺となり、海善寺は開善寺として移し、願行寺などととも八幡神社も分社され松代に移された。



曳馬(ひきうま)図の大絵馬 (84cmX136cm)

享保11年(1726)5月、上田藩松平家家臣である中根次郎右衛門配下の、側組くそばぐみ足軽32人が連名で奉納したものであることが、墨書により知られる。

なお、これは上田小県地方に残る最古の絵馬の一つでもある。



飛龍図の大絵馬

天明4年(1784)、上田藩松平忠濟は天明飢饉の悪霊祓いのために、お抱え絵師であった狩野永翁勝信に「飛龍図」を描かせ八幡神社に奉納した。

幕府が狩野派絵師を抱えていたので多くの大名家でも狩野派絵師を抱えていた。